

(資料 1)

令和5年度 事業報告

(2023年4月1日～2024年3月31日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

1. 会員状況

会員種別	2023年度			参 考	
	2023. 4. 1 現在数 (A)	2024. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2023. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	23	23	0	23	0
終身会員	234	227	△7	209	18
正 会 員	2,656	2,638	△18	2,655	△17
学生会員	807	870	63	810	60
(合計)	3,720	3,758	38	3,697	61
賛助会員	221社 (307口)	221社 (304口)	0社 (△3口)	221社 (307口)	0社 (△3口)
特殊会員	64社 (75口)	64社 (76口)	0社 (1口)	64社 (75口)	0社 (1口)

2. 定款・規則等の制定・改正

- (1) 東海支部規則 (改正) (2023.05.27)
(2) 出張旅費に関する内規 (改正) (2023.11.29)

3. 機関誌の刊行

- (1) 日本音響学会誌
本期間は毎月1日(1号は12月25日)を発行日とし、次の12冊を刊行した。

79巻4号～80巻3号(2023年4月～2024年3月)

巻 号	79巻									80巻			計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
本文ページ	34	54	38	54	52	56	46	58	50	60	48	48	598	
主 な 論 文 ・ 記 事	巻頭言		2	2			1	2		2			9	
	音叉	2			2			2					6	
	論文						9 (1)		6 (1)	9 (1)			24 (3)	
	技術報告						8 (1)	6 (1)				7 (1)	21 (3)	
	研究速報			4 (1)					7 (2)			4 (1)	15 (4)	
	特集にあたって													
	解説(やさしい解説, 小特集を含む)	27 (4)	41 (4)	28 (4)	45 (7)	30 (4)	29 (5)	32 (4)	38 (6)	26 (3)	49 (7)	32 (4)	34 (6)	411 (58)
	会議報告 (シンポジウム/活動報告)									6				6
	研究発表会報告					1						1		2

主 な 論 文 ・ 記 事	特別講演										6		6	
	選奨記事・紹介記事					14		1			1		16	
	書評					1 (2)							1 (2)	
	コーヒブレーク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	
	79 巻総目次									4			4	
	AST 目次		2		1		1		1		1		1	7
	AST abstract		4		1		1		1		2		2	11
	学会記事等	2	2	1	2	3	4		2	2	2	2	1	23
	編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	会告	9	23	29	12	13	81	21	27	19	15	71	19	339
広告	9	11	11	11	9	9	9	9	9	9	9	9	114	
発行部数	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	51000	
小特集タイトル				※2		※3		※4		※5		※6		
特集号タイトル		※1												

注 1) 欄中の () 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 音楽音響特集号

2 聴覚と脳機能計測

3 音声音響研究を発展させるコンペティション・チャレンジ

4 超音波キャビテーション気泡 —評価と応用技術—

5 リズムの知覚と算出：音系列の予測と構造化

6 良好な音声情報伝達を確保するために話者ができること —平時から非常時まで—

(2) Acoustical Science and Technology

本期間は、2023年5月、7月、9月、11月、2024年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊をオンラインジャーナルとして刊行した。

ア. AST誌への投稿システムはJSTの協力により、“ScholarOne”システムを利用した。

イ. 2023年6月、AST誌に、当学会役員会・編集委員会で取得活動を行っていた、「学術データベースWeb of Science」のインパクトファクター(IF)が付与された。初回のインパクトファクター(IF)は0.7であった。

ウ. AST誌では、2023年10月2日以降に新規に投稿されたすべてのPaper, Technical Report, Review, Acoustical Letter, Short Note, Translated Paper, Translated Letterを対象とし、J-Stage上で早期公開を実施することとした。

Vol. 44 No. 3～Vol. 45 No. 2 (2023年5月～2024年3月)

Vol.		Vol. 44				Vol. 45		計
No.		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		159	33	66	45	55	62	420
主 な 論 文 ・ 記 事	Foreword	1		1	2			4
	Paper	111 (11)	11 (1)	31 (3)	23 (2)	29 (3)	49 (5)	254 (25)
	Technical Report	17 (2)						17 (2)
	Acoustical Letter	11 (3)	20 (5)	19 (5)	12 (3)	7 (2)	11 (3)	80 (21)
	Review					7 (1)		7 (1)
	Translated Paper			13 (1)				13 (1)

Invited Paper	16 (1)						16 (1)
Invited Review					8 (1)		8 (1)
ERRATUM			1 (1)				1 (1)
和文誌英文目次	2	1	1	2	2	1	9
和文誌論文等内容梗概	1	1		1	2	1	6
Vol. 44 総目次				5			5
特集号タイトル	※1						

注) 欄中の () 内数値は編数。

※1 Special Issue on Musical Acoustics

(3) 科学技術振興機構 (JST) が運営する「科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE)」において、日本音響学会誌及び Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。日本音響学会誌の J-STAGE での公開は 6 か月後としているが、目次情報は、発刊後 1 か月程度で公開した。

(4) 編集委員会の国際化に係る取り組み

本学編集委員会において、AST 誌の国際的な評価の向上をはかる活動の一環として、Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) の広報に特化した Web ページや AST 誌の目次等を X (旧 Twitter) を利用して公開している。

4. 研究発表会及び関連イベントの開催

(1) 第 149 回 (2023 年春季) 研究発表会

ア. 2023 年 3 月 15 日, 16 日, 17 日の 3 日間, 遠隔会議システム (Zoom) と Learning Management System (LMS) の Moodle を利用して開催した。

イ. 参加登録者は, 1,190 名, 申込件数は 448 件であった。

ウ. スペシャルセッションは 10 テーマで実施した。

エ. オンライン開催を確実に実施するため, 2023 年春季研究発表会遠隔開催実行委員会 (菅木 禎史委員長) を組織した。

オ. 賛助会員のポスター展示は, Web 上で開催し, 16 社が展示を行った。

(2) 第 150 回 (2023 年秋季) 研究発表会

ア. 2023 年 9 月 26 日, 27 日, 28 日の 3 日間, 名古屋工業大学 (名古屋市) で実施した。

イ. 参加者は, 1,188 名, 申込件数は 615 件であった。

ウ. スペシャルセッションは 8 テーマで実施した。

エ. 現地開催を確実に実施するため, 2023 年秋季研究発表会実行委員会 (徳田 恵一委員長) を組織した。

オ. ビギナーズセミナーは, 2023 年 9 月 26 日に「深淵なる水中音響」をテーマとして開催した。

カ. 本会会員に賛助会員から情報提供をしていただく企業フラッシュトークを実施した。今季の企業フラッシュトークは, 2023 年 9 月 26 日に開催し, 12 の企業が参加した。

キ. 賛助会員ポスター展示は, 16 社が申込, 延べ 19 社がポスター展示を行った。

(3) 春季並びに秋季の発表分野, 講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分 野 別		春 季	秋 季
講 演 件	音 響 教 育	5	6
	超音波 (水中音響含む)	41	53
	電 気 音 響	74	112
	オーディオ	8	24
	騒 音 ・ 振 動	22	40
	建 築 音 響	23	58
	アコースティックイメージング	5	12

数	聴覚	25	29
	聴覚・音声	16	17
	音声コミュニケーション	35	38
	音 声 A	36	65
	音 声 B	48	56
	音 楽 音 響	20	30
	音支援(音バリアフリー)	3	1
	音のデザイン	19	15
	スペシャルセッション (春季10テーマ)	68	—
	スペシャルセッション (秋季8テーマ)	—	59
計	448	615	

		春季	秋季
特別講演	演題・講師	デジタルの世界で感じる「音」とはーメタバースプラットフォームの開発現場からー クラスター(株) 執行役員 CTO 田中 宏樹 氏	地球上のどこでも誰でも数時間で建てられて酷暑でも極寒でも快適なインスタントハウス 名古屋工業大学大学院教授 / (株)LIFULL ArchiTech 代表取締役 北川 啓介 氏

※1. 第149回(2023年春季)研究発表会のスペシャルセッションは10テーマ、「コミュニケーションのモダリティ」、「高臨場感オーディオと高音質ネットワーク配信」、「建築音響における音響メタマテリアルの可能性」、「音楽家と音楽音響の接点」、「屋外拡声システムの実効性向上に関する最新技術」、「スポーツと音 その9」、「音声・音響分野の競争型ワークショップ」、「ヒトと動物の情動発声と声の社会性」、「音環境の可視化・可聴化技術の動向」、「製品音デザインの最新動向」で実施した。

※2. 第150回(2023年秋季)研究発表会のスペシャルセッションは8テーマ、「教育の視点で振り返り記録に残すコロナ禍」、「制約環境下における高臨場感オーディオ再生」、「音源とフィルタから考える音声コミュニケーション」、「情動発声：ヒトと機械の自然な音声コミュニケーションに向けて」、「音楽家と音楽音響の接点ー演奏家との接点ー」、「マルチモーダル・コミュニケーションのための音デザイン」、「軟骨伝導応用機器の普及」、「スポーツと音 その10」で実施した。

(4) コミュニティセッションの開催

・第150回(2023年秋季)研究発表会において、編集委員会の主催で「投稿規定の积し方〜より良い論文執筆と査読のためのアドバイス〜」をテーマとするコミュニティセッションを開催した。

(5) 前日企画

・第149回(2023年春季)では前日企画として次の3つのイベントをオンラインで開催した。実施日時は、3月14日(火)13:00~17:00とした。
ア. 技術動向レビューは、「音声合成技術に関する研究開発技術開発の動向」をテーマとして実施した。
イ. 活性化・若手育成委員会(峯松 信明委員長)と学生・若手フォーラムは協働してビギナーズセミナー「音響キャリアパス座談会」をテーマとして実施した。
ウ. 財務委員会(中村 健太郎委員長)では、Zoomのブレイクアウトルームを利用して「賛助会員と学生との交流会」を実施した。参加企業は、13社であった。

・第150回(2023年秋季)では「日本音響学会東海支部50周年記念式典」を前日企画として開催した。基調講演、パネルディスカッション(テーマ：研究の秘訣(博士学生・若手研究者へのアドバイス)等で構成した。なお、式典の様子は、オンラインでも配信した。

(6) 研究発表会ポータルサイト

第149回(2023年春季)研究発表会及び第150回(2023年秋季)研究発表会では遠隔開催実行委員会、現地実行委員会並びに広報・電子化委員会が主導し、研究発表会ポータルサイトを作成

した。ポータルサイトでは、発表スケジュール（口頭発表中一覧，口頭発表会場別，ポスター会場別），イベント・行事等の案内，賛助会員ポスター会場，広告出稿企業一覧等を掲示した。

5. 研究会の開催

(1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超音波	渡部 泰明	9	92	電気音響，アコースティックイメージング研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	横島 潤紀	10	59	アコースティックイメージング，建築音響研究会との合同開催分を含む
電気音響	小野 順貴	6	165	聴覚，音楽音響，音声，超音波研究会，音響教育委員会との合同開催の分を含む
音声	森 大毅	5	40	電気音響，聴覚，音楽音響，音声コミュニケーション研究会，音響教育委員会との合同開催の分を含む
聴覚	入野 俊夫	8	120	電気音響，音楽音響，音声，音声コミュニケーション研究会，音響教育委員会との合同開催の分を含む
建築音響	豊田 政弘	10	44	騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
音楽音響	三浦 雅展	9	62	電気音響，聴覚，音声研究会，音響教育委員会との合同開催分を含む
アコースティックイメージング	杉本 恒美	4	31	超音波，騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
音声コミュニケーション	荒井 隆行	5	45	音声，聴覚研究会との合同開催分を含む
音響教育委員会	河原 一彦	1	15	電気音響，聴覚，音声，音楽音響研究会との合同開催の分を含む
合計		67	673	

(2) 騒音・振動，聴覚，建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で代行した。

6. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

ア. 第 52 回国際騒音制御工学会議(Inter-Noise 2023)を日本騒音制御工学会と共催して，2023 年 8 月 20 日～23 日の間，幕張メッセ（千葉県）で開催した。なお，参加者は 1,272 名（うち学生 415 名），発表件数は，883 件であった。

イ. 第 2 回韓日ジョイントセッションを韓国音響学会と共催して，2023 年 11 月 2 日に釜山広域市（韓国）において開催した。なお，同ジョイントセッションは 3 年後に日本で開催を予定する。

(2) 当学会が加盟団体となっている国際音響学会(ICA)，国際騒音制御工学会(I-INCE)の活動に協力した。

(3) 第 6 回日米ジョイントミーティング(羽田 陽一実行委員長)について，2025 年 12 月 1 日～5 日の間，ハワイ(ホノルル市，Hilton Hawaiian Village)において開催することとなり，実行委員会を構成し，準備を行った。

(4) 西太平洋地区音響学会(WESPAC)に協力した。

7. 音響規格の調査・作成

(1) 音響規格委員会(今泉 博之委員長)において、当学会が担当する電気音響及び音響一般に関する IEC/TC 29 (国際電気標準会議第 29 専門委員会(電気音響)) 及び ISO/TC 43 (国際標準化機構第 43 専門委員会(音響)) の国際標準の審議及び調査研究等を行った。

なお、音響規格委員会は、IEC/TC 29 専門委員会、ISO/TC 43 専門委員会、ISO/TC 43/SC 1 専門委員会、ISO/TC 43/SC 2 専門委員会、及び ISO/TC 43/SC 3 専門委員会で構成する。

(2) 当学会で原案作成を行った日本産業規格(JIS)に関して 5 年ごとの見直し作業を行った。

8. 調査研究委員会の活動

2023 年度において、音バリアフリー調査研究委員会が活動を終了した。

(1) 道路交通騒音予測手法の調査研究

(株)高速道路総合技術研究所との共同研究により、「道路交通騒音の予測精度向上に関する研究」を実施した。道路交通騒音調査研究委員会(岡田 恭明委員長)が作業を実施した。

(2) 音のデザインに関する調査研究

音のデザイン調査研究委員会(川上 央委員長)において、製品音、サイン音、サウンドスケープ、音環境等の音のデザインについて、包括的に調査研究を行い、音のデザインの必要性、可能性、将来性を発信することを目的とする活動を実施した。

(3) 非常用屋外拡声システムに関する調査研究

非常用屋外拡声システム調査研究委員会(佐藤 洋委員長)において、伝達用屋外拡声システムの設計・性能等に関する調査研究を行った。

(4) 軟骨伝導に関する調査研究

軟骨伝導の基本メカニズムとその応用技術等について検討する軟骨伝導調査研究委員会(細井 裕司委員長)において、軟骨伝導応用機器の普及、軟骨伝導音の校正法の規定等に関する調査研究を行った。

(5) 生物音響に関する調査研究

生物音響に関する研究の進歩と研究母体の拡大を図り、生物音響学分野の研究成果の発表、情報交換、連絡連携を目的とする生物音響調査研究委員会(力丸 裕委員長)において、調査研究を行った。

(6) 高臨場感オーディオに関する調査研究

高臨場感オーディオに関連する研究分野において、横断的な議論を行う機会を提供し、当該分野の更なる発展を目的とする高臨場感オーディオ調査研究委員会(亀川 徹委員長)において、調査研究を行った。なお、研究発表会におけるオーディオ部門のプログラム編成を担当した。

(7) スポーツ音響に関する調査研究

音響学とスポーツ競技と音のかかわりやその競技場の音環境に関し、関連する分野の研究所が議論できる場を設けることを目的とするスポーツ音響調査研究委員会(上田 麻理委員長)を設置し、調査研究を行った。

9. 学術委員会関連委員会の活動

(1) 音響教育に関する調査研究

音響教育委員会(河原 一彦委員長)では、音響学の教育と教育研究及びその普及を主たる目的として委員会活動を行っている。

なお、2023 年度は、「音の科学教室」を開催した。

・2023 年 8 月 19 日(土)に国立科学博物館において、「人の声が出せる装置を作ってみよう！」をテーマとして開催した。

10. 選 奨

(1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第 47 回功績賞受賞者は、遠藤 信行、小林 隆夫、中島 祥好の 3 氏に決定した。

(2) 日本音響学会論文賞

音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本学会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌 78 巻 1 号～12 号, 79 巻 1 号～12 号並びに AST 誌 Vol. 43 No. 1～No. 6, Vol. 44 No. 1～ No. 6 に掲載された論文中から優秀な論文を選定した。

第 64 回日本音響学会論文賞受賞論文 (敬称略)

ア. 日本音響学会論文賞佐藤賞

- 「人に容易で機械に判別困難な非語を用いた語彙性判断型 CAPTCHA 認証」

日本音響学会誌 79 巻 9 号(2023)

下倉 良太, 佐藤 遼平, 飯國 洋二(大阪大学)

イ. 日本音響学会論文賞古井賞

- 「Computationally efficient transparent sound source for the finite-difference time-domain method」

AST 誌 44 巻 5 号(2023)

豊田 政弘(関西大学), 矢田部 浩平(東京農工大学)

(3) 独創研究奨励賞 板倉記念

音響学に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選定した。

第 19 回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者 (敬称略)

- 李 莉 ((株)サイバーエージェント)

研究名:「多チャンネル変分自己符号化器法による教師あり音源分離のための高速アルゴリズム」

(4) 音声合成研究奨励賞吉田賞

当学会春季及び秋季研究発表会において、音声合成に関わる講演発表を 4 回以上行った正会員又は学生会員に贈呈する賞で、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選定した。

第 2 回音声合成研究奨励賞吉田賞 受賞者 (敬称略)

- 安田 裕介(名古屋大学)

(5) 栗屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、第 149 回(2023 年春季)研究発表会並びに第 150 回(2023 年秋季)研究発表会の講演申込者のうちの本賞受賞対象者からそれぞれ優秀な者を選定した。

第 54 回栗屋 潔学術奨励賞受賞者 (敬称略/第 149 回(2023 年春季)研究発表会, 4 名)

- 金子 卓弘 (日本電信電話(株))

「Wave-U-Net Discriminator: 敵対的生成ネットワークに基づく音声合成のための高速で軽量の識別器」

- シャイブラー ロビン (LINE(株))

「Diffusion-Mixing Process for Speech Source Separation」

- Qin Xiuyuan (千葉大学)

「Research on vibration characteristics of behind-the-ear cartilage conduction by comparing acceleration measurements between artificial and human pinnae」

- 野口 紗生 ((一社) こどものための音環境デザイン/明治大学/早稲田大学)

「吸音材の導入による保育者の音環境の認識とその変化—療育現場におけるアクションリサーチ—」

第 55 回栗屋 潔学術奨励賞受賞者 (敬称略/第 150 回(2023 年秋季)研究発表会, 5 名)

- 曹 達 (東京大学)

「実験室における乾式二重床構造の床衝撃音低減性能に関する数値解析的検討」

- 鳥谷 輝樹 (山梨大学)

「インパルス応答測定原理を応用した中耳インピーダンスメーターの改良」

- 中村 友彦 (産業技術総合研究所)
「Universal Sound Separation へのサンプリング周波数非依存畳み込み層の適用」
- 星加 慧 (九州大学)
「境界要素法への波数領域アドミタンス導入による音響反射特性の入射角依存性のモデル化」
- 星野 嗣人 (鹿島建設(株))
「単純な利得と遅延操作による 2 チャンネルの Optimal Source Distribution 原理に基づくバイノーラル合成」

(6) 学生優秀発表賞

春季又は秋季研究発表会において優秀な発表を行った学生会員に贈られるもので、第 149 回(2023 年春季)研究発表会並びに第 150 回(2023 年秋季)研究発表会の講演申込者うちの本賞受賞対象者からそれぞれ優秀な者を選定した。

第 26 回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/第 149 回(2023 年春季)研究発表会, 24 名)

今井 柊平(東北大学), 小松 亮太(東京工業大学), 関 健太郎(東京大学), 平川 雄也(静岡大学), 藤田 直明(九州大学), 西堀 諒(同志社大学), 廖 嘉慧(豊橋技術科学大学), 岡田 健佑(龍谷大学), 酒井 賢人(静岡大学), 中村 風香(千葉工業大学), 中村 優希(徳山工業高等専門学校), 饒平名 文希(東京農工大学), 橋本 涼汰(早稲田大学), 本間 響(新潟大学), 小川 晃史(京都大学), 永野 洋介(明治大学), 高畠 耀介(東北大学), 山根 綾太(東北大学), Wang Yimeng(室蘭工業大学), 崔 廷宅(千葉大学), 大谷 祐人(東京理科大学), 広沢 隼土(中央大学), 阿部 翔太(東北大学), 梶 竜也(神奈川工科大学)

第 27 回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/第 150 回(2023 年秋季)研究発表会, 26 名)

伊藤 葵(法政大学), 松田 匠翔(千葉工業大学), 三河 多聞(豊橋技術科学大学), YANG HAOYUAN(東京工業大学), 渡邊 亞椰(東京大学), 中澤 和司(山形大学), 西内 唯夏(同志社大学), 新井 慶大(東京農工大学), 小倉 稜也(北陸先端科学技術大学院大学), 小林 朋記(早稲田大学), 豊岡 祥太(関西大学), 松本 和樹(早稲田大学), 渡會 博子(東京農工大学), 塩屋 仁菜(九州大学), 丹羽 遼吾(筑波大学), 濱谷 晃希(近畿大学), 山崎 泰知(東京大学), AN JUNSEOK(東京工業大学), 富平 嗣大(東北大学), 横山 裕正(東京都立大学), 内田 彩芽(東京電機大学), 吉谷 友紀(立命館大学), 脇田 真子(千葉工業大学), 鮎川 栞(九州大学), 洪 振翔(東京都立大学), 青木 大成(神奈川工科大学)

(7) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者, 賛助会員所属の個人, グループに贈られるもので, 公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。

第 32 回技術開発賞 受賞社 (敬称略)

- 鹿島建設(株)技術研究所
「OPSODIS®立体音響技術」
- 矢入 幹記, 星野 嗣人, 武内 隆 (鹿島建設(株)技術研究所)

(8) 学会活動貢献賞

本学会活動の活性化に多大な貢献があった若手の正会員又は学生会員を顕彰する目的で贈られるもので, 今年度は次の 15 名を選定した。

第 11 回学会活動貢献賞受賞者(敬称略)

- 朝倉 巧(東京理科大学) [編集委員会の幹事としての貢献に対して]
- 黒山 喬允(防衛大学校) [音楽音響研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 才野 慶二郎(ヤマハ(株)) [広報・電子化委員会の委員としての貢献に対して]
- 菅原 彬子(近畿大学) [アコースティックイメージング研究委員会の幹事としての貢献に対して]

- 杉江 聡(小林理学研究所) [建築音響研究委員会の委員長・副委員長・幹事としての貢献に対して]
- 橘 亮輔(産業技術総合研究所) [聴覚研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 寺澤 洋子(筑波大学) [音のデザイン調査研究委員会の副委員長・委員としての貢献に対して]
- 中鹿 亘(電気通信大学) [広報・電子化委員会の委員としての貢献に対して]
- 中山 雅人(大阪産業大学) [編集委員会の幹事としての貢献に対して]
- 西浦 敬信(立命館大学) [電気音響研究委員会の幹事・副委員長としての貢献に対して]
- 福島 昭則((株)ニューズ環境設計) [道路交通騒音調査研究委員会の幹事・委員としての貢献に対して]
- 星 和磨(日本大学) [高臨場感オーディオ調査研究委員会の幹事補佐としての貢献に対して]
- 堀内 俊治((株)KDDI 総合研究所) [研究発表会準備委員会の幹事としての貢献に対して]
- 森長 誠(大同大学) [編集委員会の幹事としての貢献に対して]
- 米村 美紀(前橋工科大学) [学生・若手フォーラムの幹事・代表としての貢献に対して]

(9) 音響遺産の認定

本学会プレゼンス向上を目的として、音響学及び音に関わる事象を「音響遺産」として認定する。今年は第4回音響遺産を認定した。

1 1. 講習会, 講演会及びセミナーの開催

(1) 講習会 (敬称略)

事業委員会(廣江 正明委員長)が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。

ア. 「ゼロから始める波動音響シミュレーション-Python で FDTD-」

(第196回技術講習会)

期 日: 2023年6月15日 会場: オンライン(Zoom)開催

講 師: 豊田 政弘(関西大学)

受講者数: 38名

イ. 「HTML5 と Web Audio API による音アプリ制作」(第197回技術講習会)

期 日: 2023年8月25日 会場: オンライン(Zoom)開催

講 師: 須田 宇宙(千葉工業大学)

受講者数: 14名

ウ. 「よくわからない音響信号解析の基礎」(第198回技術講習会)

期 日: 2023年8月30日, 31日 会場: オンライン(Zoom)開催

講 師: 森勢 将雅(明治大学)

受講者数: 25名

エ. 「立体音響入門-アンビソニックの理論から Reaper の活用まで-」(第199回技術講習会)

期 日: 2023年11月8日 会場: オンライン(Zoom)開催

講 師: 大谷 真(京都大学), 亀川 徹(東京藝術大学)

受講者数: 41名

オ. 「デジタル信号処理の基礎と応用」(第200回技術講習会)

期 日: 2024年2月20日, 21日 会場: オンライン(Zoom)開催

講 師: 高橋 義典(工学院大学), 武岡 成人(静岡理工科大学),

池田 雄介(東京電機大学)

受講者数: 26名

1 2. 出版事業

(1) 出版委員会（坂本 修一委員長）に属する3つのシリーズ編集委員会、音響テクノロジーシリーズ編集委員会（飯田 一博委員長）、音響サイエンスシリーズ編集委員会（土肥 哲也委員長）において、それぞれ企画内容について審議した。

ア. 音響テクノロジーシリーズ

- ・超音波モータ（音響テクノロジーシリーズ 26）（2023/09/28 発行）
- ・物理と心理から見る音楽の音響（音響テクノロジーシリーズ 27）（2024/01/26 発行）

(2) 音響用語辞典編集委員会（鈴木 陽一委員長）において、用語の選定作業を行い、編集作業を進めた。

1 3. 学会電子化推進に関する活動

広報・電子化委員会（西浦 敬信委員長）において、学会ホームページの管理・運営、学会メーリングリストの発信及び研究発表会実行委員会に参画・協力し、オンライン開催、ポータルサイト作成協力等のシステム全般の管理・運営に協力した。

会員向けのマイページの早期の構築を目指して準備を進めている。会員マイページでは、会員入退会、会員情報の変更、会費納入手続きの簡便化等に対応する予定である。

1 4. 学会活性化、若手育成に関する活動

活性化・若手育成委員会（荒井 隆行委員長）において、ビギナーズセミナーの開催、学生・若手フォーラムと協力し学会の活性化を図る活動を行った。

1 5. 財務に関する活動

財務委員会（中村 健太郎委員長、鎌本 優(会勢拡大担当)、白勢 彩子、松井 淑恵(産業連携・広告担当))において、賛助会員、広告の増加策等会勢の拡大につながる諸策を実施し、財務の安定にむけた活動を行った。また、研究発表会において、賛助会員ポスター展示、企業フラッシュトーク、賛助会員と学生との交流会等のイベントを開催した。

・第 151 回(2024 年春季)研究発表会では新たにスポンサーシップの募集を行った。スポンサーシップは研究発表会の開催を経済的にサポートし音響学の発展に支援をいただける企業等を募るもので研究発表会ごとに募集する。第 151 回(2024 年春季)研究発表会では 8 社から応募があった。

1 6. 寄付制度と学会活動活性化

2023 年度会費の請求に併せて名誉会員、終身会員、正会員にご寄付を募った。なお、拠出寄付金は、学会活性化に関する事業に資する目的で学会活性化積立資産等として積み立てた。

1 7. 通常総会の開催

第 57 回通常総会は、2023 年 5 月 27 日、オンライン開催により実施した。

なお、出席者は、121 名（うち議決権行使書の提出による出席 49 名）であった。また、オンライン開催の実施に関し、広報・電子化委員会がシステムの運営を担当した。

1 8. 理事会、役員会並びに委員会活動

(1) 理事会

2023 年度理事会は、2023 年 8 月を除く毎月開催したほか理事の交代期の 5 月には 2 回開催し、計 12 回開催した。なお、理事会は、ハイブリッド開催とオンライン開催を併用して開催したほか、9 月理事会は名古屋工業大学での現地開催とした。

(2) 役員会

2023 年度役員会は、2023 年 8 月を除く毎月、計 11 回開催した。なお、開催様式は、理事会と同様であった。

(3) 企画委員会

2023年度企画委員会(及川 靖広委員長)は、2023年8月を除く毎月、計11回開催した。

(4) 編集委員会

編集委員会(廣谷 定男委員長)は、2023年5月、6月、7月、9月、11月、2023年1月及び3月の計7回開催したほか、研究発表会の開催に合わせて2回実施(現地開催)した。なお、編集委員会は、2回の現地開催を除きオンラインで開催した。

(5) 学術委員会

学術委員会(大川 茂樹委員長)は、2023年6月、9月、11月、2024年3月の4回開催した。なお、学術委員会は全てオンラインで開催した。

(6) 研究発表会準備委員会

研究発表会準備委員会(水町 光徳委員長)は、2023年9月、2024年3月の2回、研究発表会会場において開催した。

(7) 広報・電子化委員会

広報・電子化委員会(西浦 敬信委員長)は、2024年3月に拓殖大学において開催したほか、学会活動で広報、電子化に関する事業に協力した。

19. 他学協会等からの共催等依頼

区 分	件 数	摘 要
共 催	1 件	(公社)日本騒音制御工学会
協 賛	36 件	(一社)日本オーディオ協会ほか
後 援	3 件	(一社)日本非破壊検査協会ほか
計	40 件	

20. 支部所属会員

(1) 関西支部

会員種別	2023年度			参 考	
	2023. 4. 1 現在数(A)	2024. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2023. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	6	6	0	6	0
終身会員	27	25	△2	25	0
正 会 員	413	391	△22	410	△19
学生会員	181	155	△26	177	△22
(合計)	627	577	△50	618	△41

(2) 東北支部

会員種別	2023年度			参 考	
	2023. 4. 1 現在数(A)	2024. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2023. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	4	4	0	4	0
終身会員	21	21	0	20	1
正 会 員	100	97	△3	98	△1
学生会員	60	42	△18	61	△19
(合計)	185	164	△21	183	△19

(3) 東海支部

会員種別	2023年度			参 考	
	2023. 4. 1 現在数(A)	2024. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2023. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	24	23	△1	22	1
正 会 員	247	233	△14	248	△15

学生会員	72	86	14	72	14
(合計)	343	342	△1	342	0

(4) 九州支部

会員種別	2023年度			参 考	
	2023. 4. 1 現在数(A)	2024. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2023. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	1	1	0	1	0
終身会員	15	14	△1	11	3
正 会 員	136	128	△8	138	△10
学生会員	60	57	△3	64	△7
(合計)	212	200	△12	214	△14

(5) 北陸支部

会員種別	2023年度			参 考	
	2023. 4. 1 現在数(A)	2024. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減	2023. 3. 31 現在数(C)	前年度末 との対比
名誉会員	2	2	0	2	0
終身会員	4	4	0	3	1
正 会 員	61	63	2	61	2
学生会員	52	42	△10	52	△10
(合計)	119	111	△8	118	△7

2 1. 支部の事業

(1) 関 西 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2023年4月、7月、10月、12月、2024年3月、4月に開催。

イ. 総会・研究会・支部研究発表会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2023. 4. 26	オンライン (Zoom)	2022年度事業実施・決算報告 2023年度事業計画・予算審議 オンライン出席36名, 委任状232 通計268名(定足数124名)
談話会(第33回音楽の科学研究会)	2023. 5. 21	神戸大学大学院人間発達環境学研究科・Zoom (ハイブリッド開催)	申請者: 大澤 知恵(武庫川女子 大学) 発表件数: 5件 参加者 数: 現地15名, オンライン55 名
秋季講演会・見学会	2023. 10. 20	・公益財団法人計算科学振興財団 ・理化学研究所計算科学研究センター	講演3件, 見学2件 参加者19名
第26回若手研究者交流研究発表会	2023. 12. 9	近畿大学東大阪キャンパス, ブロッサムカフェ	ポスター発表58件, 企業展示3件, 参加者122名
聴覚研究会	2023. 12. 16	大阪大学	申請者: 山岸慎平(NTT) 発表件数: 7件 参加者: 17名
騒音・振動研究会	2024. 1. 12	神戸大学・オンライン (ハイブリッド開催)	申請者: 横山 栄(小林理学研 究所) 発表件数: 6件 参加者: 現地25名, オンライン 30名

(2) 東 北 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は 2023 年 3 月にオンラインで、開催した。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2023. 4. 19	東北大学工学部(ハイブリッド開催)	
第 1306 回学術講演会(主催)	2023. 6. 21	東北大学工学部 復興記念ホール(ハイブリッド開催)	「聴覚メカニズムから考える難聴耳のマスク特性」 講師 川瀬 哲明 氏(東北大学名誉教授)
電気音響研究会	2023. 8. 31 ～ 9. 1	東北学院大学	
2023 年度電気関係学会東北支部連合大会	2023. 9. 5 ～ 6	岩手県立大学(対面開催)	講演件数 187 件, セッション数 33 件, 参加者 164 名, 企業展示 7 団体, 賛助協力企業 7 団体, 広告掲載企業 20 団体, 特別講演 1 「アジア初の国際研究機関 ILC 「日本の未来のための価値とその可能性」について」(鈴木 厚人氏(秋田県立大学学長)) 特別講演 2 「人道的地雷除去技術とウクライナへの支援」(佐藤 源之氏(東北大学名誉教授))
東北大学電気通信研究所一般公開(後援)	2023. 10. 7	東北大学片平キャンパス	後援 5 学会東北支部, 情報通信研究機構, 4 市の教育委員会, 協賛 2 学会 訪問者数 624 名(予約制(抽選))
第 6 回東北地区音響学研究会	2023. 11. 25	秋田大学地方創生センター(対面開催)	発表件数 11 件 参加者 18 名
音楽音響研究会	2023. 11. 25	八戸工業大学	
建築音響研究会	2023. 12. 22	あきた芸術劇場ミルハス	
令和 6 年東北地区若手研究者研究発表会(共催)	2024. 3. 1	日本大学工学部	東北地区若手研究者研究発表会主催, 日本音響学会東北支部ほか 9 学会, 1 大学共催 講演件数 206 件(口頭 103 件, ポスター 103 件) 参加者 338 名

ウ. 若手研究者優秀論文賞

発表会から、所定の手続きにより審査を行った。その結果、電気関係学会東北支部連合大会から 1 名、東北地区音響学研究会から 3 名及び東北地区若手研究者研究発表会から 4 名の受賞者を決定した。

(3) 東 海 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2023 年 3 月、12 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
2023 年度支部総会・講演会	2023. 3. 24	オフィスパーク名駅プレミア/オンライン	出席者 14 名 講演: 若林 佑幸氏(豊橋技術科学大学)

騒音・振動研究会(後援)	2023. 5. 19	名城大学	
東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会(後援)	2023. 8. 7	静岡大学浜松キャンパス	参加者 160 名 講演件数 64 件
電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会	2023. 8. 28 ～ 29	豊橋技術科学大学	大会参加登録者 514 人 講演件数 286 件
支部 50 周年記念事業	2023. 9. 25	名古屋工業大学／オンライン	参加者：現地 164 名，オンライン約 30 名，企業出展 2 件
東海地区音声関連研究室卒業論文(中間)発表会(後援)	2023. 12. 9	中部大学	参加者約 126 名 講演件数 63 件
2023 年度優秀発表賞表彰式	2023. 12. 11	ウインクあいち／オンライン	表彰式出席者 10 名 役員会併催(10 名)

ウ. 支部発表奨励及び優秀発表賞

- ・発表奨励：20 件(東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会 18 件／電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 2 件)
- ・優秀発表賞受賞者 6 名

(4) 九 州 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は，2023 年 3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
聴覚研究会	2023. 6. 16 ～ 17	熊本大学	共催
第 76 回電気・情報関係学会九州支部連合大会	2023. 9. 7 ～ 8	崇城大学	共催 講演件数 387 件(招待 2, 企業 8 含む), 参加登録 213 件, 企業協賛 21 件 (九州支部から 7 件の発表)
音楽音響研究会	2023. 10. 7 ～ 8	石川地域活性化センター舞天館	共催
アコースティックブートキャンプ(ABC-Q)	2023. 10. 14	九州大学	主催 参加者 17 名
建築音響／騒音・振動研究会	2023. 11. 10	熊本大学	共催
音のデザイン調査研究委員会／騒音・振動研究会	2023. 12. 12	九州大学	共催
第 17 回学生のための研究発表会	2023. 12. 16	熊本大学(ハイブリッド)	主催 発表件数 11 件, ラボ見学
電気音響研究会	2023. 12. 22 ～ 23	九州大学	共催
講演会	2024. 3. 30	熊本市国際交流会館	主催 演題「ホルマント正規化構音空間における話者性と音韻性の分離抽出に関する考察」 講師 上田 裕一氏(熊本大学名誉教授) 参加者 18 名
支部総会	2024. 3. 30	熊本市国際交流会館	主催 出席者 65 名

ウ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会，研究会等における学生の発表を対象として応募

者を募り、特に優れたものを表彰した。2023年度の表彰者は6名であった。なお、表彰式は、2024年3月30日に支部総会に引き続き実施した。

(5) 北 陸 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2023年4月、6月、9月、2023年1月、2月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2023. 4. 10 ～ 17	COVID-19 の影響により メール審議	令和4年度事業報告・決算報告 令和5年度事業計画・予算 審議の了承された
2023年度電気・情報関係 学会北陸支部連合大会	2023. 9. 2	金沢工業大学 (オンライン開催)	音波・音響関係部門 講演12件(う ち招待講演1件) 学生優秀論文発表賞4件
騒音・振動研究会	2023. 10. 25	石川県立図書館(ハイブ リッド開催)	開催支援
高校生プレゼンテーシ ョンコンテスト2023 私のまちな音風景	2023. 11. 4	発表者オンライン 審査員対面(金沢工業大 学)	講演9件
電気音響/聴覚/EMM研 究会	2023. 11. 23 ～ 24	大学コンソーシアム富 山	講演21件(うち招待講演3件) 参加者数 11/23:47名 11/24:41名

ウ. 学生表彰

2023年度 電気・情報関係学会北陸支部連合大会において、音響部門で優秀な発表を行っ
たと認められた学生4名に「優秀発表賞」を進呈した。

事業報告書の附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。